

2016年3月期決算・中期計画説明会の概要

1. 実施概要

- (1) 日 時 2016年5月12日(木) 16:30~17:30
- (2) 場 所 株式会社日立物流 本社1F サン&サンホール (東京都江東区東陽7-2-18)
- (3) 出席者 <当社>
執行役社長 中谷 康夫、執行役専務 神宮司 孝
執行役常務 浦山 一紀、執行役常務 林 伸和、執行役 鹿志村 一俊
<報道関係者・機関投資家・アナリスト他>70名
- (4) 内 容 ① 決算概要説明：執行役常務 林 伸和
② 中計概要説明：執行役社長 中谷 康夫
③ 質疑応答

2. 主な質疑応答 (要旨)

Q1. 2015年度には構造改革効果(営業利益+10億)がありましたが、2016年度には効果はないのでしょうか。

A1. 「構造改革」を個別項目として開示はしていませんが、構造改革の取り組みは継続して進めておりますので、2016年度通期実績(結果)としては利益の押し上げ要因となり得ます。尚、2013年度や2014年度とは異なり、平時の改革であることが大きな違いです。

Q2. 2016年度は保守的な計画と捉えてよいですか。

A2. 為替想定も含め保守的に見えるかもしれませんが、本計画はボトムラインとして捉えています。

Q3. 海外の物量のトレンドを教えてください。(より悪化しているのでしょうか。)

A3. 地域によって異なります。先ず、フォワーディング事業についてですが、日本発着は減少傾向です。又、中国地域もアメリカ向けなどを中心に減少しています。但し、中国地域からインドや中近東への物量はある程度維持しており、これらの地域に注目しています。又、海外事業全体では、中国地域以外ではそれほど物量は落ちていません。

Q4. 営業利益の2016年度計画は上期、下期で大きく差がある理由を対前年比も含め教えてください。

A4. 上期において、海外で大型戦略案件の先行投資が発生することや為替影響が大きいこと、及び上期の立上案件が下期に利益寄与すること等によるものです。

Q5. 中期計画に織り込んでいる次世代物流センターの業績寄与はどの程度でしょうか。

A5. 2018中計では限定的となりますが、投資額に対しては5~6%程度の効果は期待しています。これらの新技術は導入により効果がでることは検証されておりますので、順次、業績に反映してまいります。

Q6. 中期計画にはM&A効果(売上収益・営業利益)をどの程度織り込んでいるのでしょうか。

A6. 最終的にどの案件がどの時期に決まるかは未定のため、詳細な時期・規模等のコメントは控えさせていただきますが、一定の規模を織り込んでいることは確かです。また、利益は当社グループ全体の利益率 4~5%で計画に織り込んでいます。

Q7. 中期計画のキャッシュ・フローをどのように想定されていますか。

A7. 投資については、基本的には営業キャッシュ・フローの範囲内での対応であり、従来と変わりません。
佐川急便株式の取得については、借入で対応するため、投資・財務活動のキャッシュ・フローは従来よりも大きくなります。

Q8. 配当の考え方(方針)について教えてください。

A8. 従来通り、中長期的視野に基づく事業展開を考慮し、安定的な配当による利益還元を努めることを基本方針としており、具体的な金額は、配当性向 20%以上を意識しつつ、各年度で検討致します。

Q9. SGホールディングス㈱との経営統合について教えてください。

A9. 経営統合ありきではなく、シナジーの創出等、株主を含むステークホルダーに理解して頂けるような結果を出すことが前提です。尚、お互いに協業できる範囲はかなりあると感じています。

Q10. 中期計画では提携の協業効果として 500 億の増収計画ですが、営業利益への寄与はどの程度でしょうか。

A10. 具体的な数値は控えさせていただきますが、500 億の増収に対し、当社グループ全体の利益率と同水準で利益寄与すると想定しています。

Q11. 佐川急便㈱の持分法投資利益の考え方(算出方法)は、同社利益の約 2 割との理解で宜しいでしょうか。

A11. 佐川急便㈱の当期純利益に対して 20%(当社の出資比率)との考えで問題ありません。

3. 会場風景



以上